



## ☆目が不自由な方の生活について学びました☆

牧之原市社会福祉協議会の方に目の不自由な方の生活や点字について教えていただきました。社会福祉協議会の職員さんの中に、視覚に障害をもっている方がおられ、実際の生活や子どもたちの質問にも的確に答えてくださいました。

職員さんが「私が話している時、頷くだけでなく声で知らせてくれるとうれしいです。」と話されると、子どもたちはしっかりと声に出して反応しながら話を聞くことができました。また、MTさんやNRさん、KRさんが職員さんを教室や玄関まで案内してくれました。どう声をかければいいかが難しかったと思いますが、「階段は後一段です。」「終わりです。」などと、とても丁寧に声をかけることができていました。（こうしてほしい。）という思いをしっかりと受け止めて、すぐに行動に表すことのできる4年生は、心が優しいなと感じました。

今後の菅山タイムの学習では、もう少し学習を深め、自分たちに何ができるのかを考えて実行していきたいと思っています。

## ☆子どもたちの感想より①☆

職員さんに話を聞きました。白い杖は、色々なことに使えることがわかりました。例えば、物をつついて場所を確認したり、階段の段差を知ったりすることができるそうです。白い杖をもっているのは、視覚障害をもっている人だけです。目が不自由な人は、苦勞もしていることがわかりました。  
【HAさん】

職員さんが来て、こういう生活をしているんだよという話を分かりやすく教えてくれました。点字で、自分の名前を打つことができて楽しかったです。みんながたくさん質問をしたけど、職員さんがちゃんと答えてくれたのでうれしかったです。こういう体験ができて良かったです。これから、目が見えない人がいたら手伝ってあげたいです。  
【HSさん】

職員さんは、「目が見えない方が幸せだ。」と言っていた。目が見えた方がいろんなテレビが見れるし、車だって運転できる。なのに、「見えない方が…」と言っていたからすごいなあと思った。お話を聞いて、いろんなことにびっくりした。でも、職員さんは、それを毎日やっている。それもすごいなあと思った。体に障害がある方に今、私たちができることは何か探してみるようにしたい。  
【OHさん】



## ☆子どもたちの感想より②☆

職員さんに「目が見えなくても幸せですか？」という質問をしたら、意外な言葉が返ってきました。「目が見えない方が幸せかもしれません。家族や近所の方がやさしく声をかけてくれるのでうれしいです。」という答えです。その言葉を聞いて、(すごいなあ)と改めて思いました。もちろん大変なこともあるけれど、そうやって前向きに考え、常に有り難みを感じて生きている職員さんは、とてもすごい人だなと心から思いました。  
【YAさん】

ぼくは最初、目の見えない人に何て声をかければいいのかと思っていました。まずは、挨拶をすればいいと聞いていたので、ぼくはそれができるようにがんばりたいです。ぼくは、目の不自由な人はどうやって買い物をしているのかなと思っていました。中島さんは、店員さんに案内してもらったり、かごの中に入れてもらったりして買い物をしていることが分かりました。色々なことがわかってうれしかったです。  
【THさん】

ぼくは、目の見えない人のことや点字のことをいっぱい知って、色々大変なことがあるんだなと思いました。特に、職員さんが、「一人暮らしをしている。」と言ったときは、すごく驚きました。点字の書き方や打ち方を知りました。でも、点字を全て覚えるのはすごく大変そうでした。ぼくは、名前を一発で打つことができました。これからぼくにできることをやっていきたいです!!  
【NHさん】

お話の中で、字を拡大できる機械や声で時間を教えてくれる携帯など、便利な物がたくさんあった。職員さんは、人と助け合っていたり、一人でもいろんな事に挑戦したりしていてすごいなあと思いました。もし、白い杖を持っている目の不自由な人がいたら、声をかけたり、手伝ってあげたりしたいなと思いました。目の不自由な人はポジティブだし、いい人なんだなと思いました。とにかくいろんな人に挨拶することは大事だなと思いました。  
【TNさん】

